

チームによる地域包括ケアシステム構築のための研究

課題

市町村の課題としては、①複合的な課題のある世帯・家族の増加、②医療・介護が必要な高齢者の増加、③ライフステージ別の包括ケアの必要性、④地域包括ケアに必要な人材の不足、⑤包括ケア職員のアセスメント力の不足などであった。（大分県内市町村へのヒアリング結果より）

方向性

課題解決の方向性としては、①出生前の妊娠期から高齢者の終末期まで、子ども・障害者・高齢者などすべての住民を対象にした、一貫性・継続性のある包括支援システムの構築が必要。②そのためには、個人を対象にするのではなく、世帯・家族を対象にし、多職種間連携・協働を基盤にした総合的なチームによる包括ケアシステムが必要。

解決策及び実績

地域包括ケアシステム構築のための研究等による市町村と大分大学との連携・協働

大分大学 福祉健康科学部・研究科

①「社会参加」を促進する地域づくりの課題と主観的・客観的意義 -大分市における地域活動の現状と介護予防効果-

②大規模公営住宅団地におけるコミュニティの形成

③地域包括システムのためのアセスメント票の開発 → アセスメント評価ツールをオンラインで使えるように電子版を開発し、サーバーでの運用を実現

④住民主体型の運動教室の開発、呼吸困難をもつ患者への、安楽な運動方法に関する研究 → 杵築市での週一通いの場を利用した住民主体型運動教室を実施、継続し、現在も約150名の住民が本運動教室に参加している。

⑤発達障害のある母親への子育て支援プログラムの作成

連携・協働

家族・世帯に対するチームによる地域包括ケアシステムの構築

